

阿母さん、これ何

ひ さ 子

阿母さんこれ何。阿父さんは、どこへいらしたの。

あれはどうしてできたの。それはどこから持ってきたの。なま、いふことばは、よく子供が申します。實に子供は、何でもきいたがり知りたがるものでございませす。此間も、私が湯屋にまゐりましたところが、一人の阿母さんが、六歳位の男の子をつれて、はいつてまゐりました。その子が阿母さんにたずねますには。

阿母さん、この御湯はしまひにどうするの。

阿母さんはまじめに、

これは子、しまひに番頭さんがのんでしまふのですよ。

と答へました。大人ならば、どうしてのめるものか。と思ひますが、かわいそうに子供ですから、そうかし

らんどいふやうなかほで、さもふしぎさうにきいて居りました。

今度は、その阿母さんが、そばに居る人に向て、

あなた子、此子はどうも、いつでもつづらないことばかりきいてしかたがございませせん。先日も、あたしはどうしてできたの。御醫者様がこしらへたの。とたづねるのでございませすよ。

はなしかけられた人は、

それでいらつしやいますか。私方の子ども、御同様でござります。先日も、阿母さん、雲はしまいにどうなるの。と申すのでございませすよ。

私は、この二人の阿母さんの話をきゝまして、あの阿母さんたちは、折角子供の出したよい問をば、しかたがないとか、こまるとか言つて、うるさがつて居られる。子供の方から考へると、随分かわいそうな

はなしである。と感かんじました。

なせならば、はじめにも申もうした通り、いろんなことを問とひたすのは、子供こどもの天性てんせいです。そうして。問とひだして答こたへてもらふたびに、何かしら知りませう。大人おとなでも、知らないことを人に問とうて、その人が親切しんせつにこたへてくれましたならば、それで何かおぼえるではありませんか。ほんとうに、物事ものごとを問とふといふことは、物事ものごとを知る源もとになるものでございませう。何なにを見聞みきしても、なにであるか、なせであるか。といふやうな疑うたがひを起おこさぬ人はどかく進すすまないものでございませう。ですから子供こどもには、ものを問とふ習慣くせいを、求もとめてもつけてやりたいのです、ところが都合ごうごよく、子供こどもは、よく何かを問とひたすやうにうまれついてをります。

ですから、子供こどもが何かたづねましたならば、大人おとなは、よろこんで答こたへてやらなければなりません。決して、

家庭 阿母さんこれ何 此心

うるさいとか、やかましいとか言いつて、子供こどもの心こころをくじいてはなりません。できるだけ、子供こども相應おうりやうに、よく分わかるやうに、答こたへてやるのが肝心かんじんでございませう。もしました、はなしでもとても分わからぬことならば、今はまだはなしをあけても分わからぬ。大きくなつたら分わかる。と言いひきかせば、それがよい答こたでございませう。ほんとうに似にたやうなうそで、ごまかした答こたをするのは、まことにいけません。

梓弓すしきうはるの山やまべを越こえくれば

道みちもまりあへず花はなぞちりける

此心 此心

溱生

入相告いりあひつぐる山寺やまでらの鐘かねの響ひびきは、鎮守ちんじゆの森もりにゆらぎ渡わたりて、時ときに急いそぐ暮鴉くれからすは早はやや巢すこもりたらむ頃ころ、終日ひねり働はたらき